

雨降りのアークード

青年のヒサハルは

坂道を下りながらあれこれと思考を巡らせていた。

これまでの人生でいろいろあったのではあるが

いつの間にか丸い木の板に乗って

坂を下っていた・・・・・・・・。

坂を登る

腰のへの字に折れ曲がった

旅人のようなしんどい日々もあったのだけれど……。

ヒサハルはとある程よい数の人が行き交う昔ながらのアーケードへたどり着いた。

下り坂は宙に浮いた幻だったのか。

消えてなくなっていた。

体験版は以上になります。ご読了ありがとうございます。
した。